

短期導入うたうプロジェクト管理ソフトが続々 「進行基準対応」で駆け込み需要を狙う

受託ソフトウェア開発に「工事進行基準」が適用される2009年4月まで半年を切る中、ソフトウェアベンダーがプロジェクト管理ソフトの新版や新製品/サービスを相次いで投入した(表)。

ソフトベンダーの狙いは、進行基準の適用に向けた駆け込み需要である。ITサービス業界では進行基準への対応を急ぐ企業が増えているが、パッケージソフトでは導入に数カ月以上かかるケースも少なくないからだ。

このため各社が投入したソフトは、短期導入しやすいASP(アプリケーション・サービス・プロバイダ)方式や、ブラウザがあれば使える手軽なWebアプリケーション方式のパッケージが多い。プロジェクト単位での導入や大企業の一部門での導入にも向く上、ほとんどカスタマイズなしで導入で

きるという。

サイオステクノロジーは9月30日、プロジェクト管理ソフト「ProjectKeeper Professional」の最新版を出荷した。Webアプリケーションの製品で、サーバーにソフトをインストールするだけで済む。宮崎哲明マーケティング企画グループマネージャーは、「工事進行基準の適用に向けて準備を急ぐSIerから問い合わせが増えた。設定も含めて手軽に扱えるため、稼働まで1週間もあればいい」と話す。

WebアプリケーションとASPとで大きく異なるのは初期投資額。ASPは1ユーザーで5000円前後の月額課金が多いが、Webアプリケーションであるカイエンシステム開発の「BizMagic ワークス」の場合、50ライセンスで80万円かかる。

パッケージソフト「e工程マネージャー」を提供してきたソフトブレーションは、ASP版を10月15日から提供した。「中小規模のSIerでは、初期投資が少なくて済むASP方式の需要が見込めそうだ」(ソフトブレーションの久場純哉マーケティング&コミュニケーション部課長)。カイエンシステム開発も「まずはWebアプリケーションで年内に提供し、年明けにはASP版を提供したい」(金子一彦社長)と言う。

サイオスのようにサーバーのプロセッサ数当たりのライセンス価格を採用することで、ユーザーが多いほど他社のパッケージソフトと比べた場合の割安感が増すように工夫している企業もある。SIerは、機能や価格などの特徴を見極めながら比較検討したうえで、導入すべきだろう。(瀧本 大輔)

表●短期導入が可能な主なプロジェクト管理ソフト/サービス

サービス名	企業名	特徴	価格
BizMagic ワークス	カイエンシステム開発	主にSIerが対象で、EVMによる進捗管理に対応。WBSの作成支援機能もある。年内に正式版を出荷。ASP方式にも対応予定	50ライセンス80万円
ProjectKeeper Professional	サイオステクノロジー	原価管理とEVM分析機能を持つ。Webアプリケーションとして動作するので複数拠点での情報も共有しやすい	1プロセッサ当たり200万円～
TEKI PAKI	ソフトバンクBB	[Microsoft Office Project] を月額課金で提供。ライセンス数を月単位で変更できるので、開発状況に応じて柔軟に対応可能	1ライセンス2480円/月
e工程マネージャー	ソフトブレーション	操作性を高めたパッケージの新バージョンを3月に発売。1カ月程度で導入できるASP版を追加	1ライセンス5000円/月
@task	サンブリッジ ソリューションズなど	ASP方式で提供。Excelからプロジェクトやタスクを読み込めるほか、ブラウザ上でガントチャートを作成できる	1ライセンス5900円/月～

EVM: アーンド・バリュー・マネジメント WBS: ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャ ASP: アプリケーション・サービス・プロバイダ